

(2) 帯水層の分布

中流域の地下水は、浅層の砂礫層に自由面地下水が賦存しています。この地下水は左右岸からの支川や山からの涵養および吉野川の伏流によるものです。

《解説》

中流域の地下水は、砂礫層に自由面地下水が賦存しています。

この地下水は、吉野川本川からの供給によるもの、支川からの供給によるもの、左右岸の山地岩盤の割れ目に流動している裂か水等があげられます。

なお、支川及び山からの供給地下水は、左岸側に比べ右岸側で多いと考えられます。その理由として、年間降雨量が左岸側で1500mm程度に対し、右岸側で1500～2500mmと多いこと、左右岸の支川の流域面積，河床勾配を比較すると、右岸側の方が流域面積が大きく河床勾配が緩やかであること等があげられます。

吉野川左岸右岸の違いによる特徴

以下に、左右岸を比較してそれぞれの特徴を整理して示す。

区域		特に中流域	
		左岸（北岸）	右岸（南岸）
年間降雨量		1,500mm 前後と雨が少ない	1,500～2,500mm（多雨地域）
主な支川	流域面積	20～70km ² （平均 44km ² ）と小さい	60～200km ² （平均 120km ² ）と大きい
	流路延長	10～16km と短い	14～42km と長い
	河床勾配	急勾配	緩やか
	流量	通常は枯れ川が多い	比較的水は豊富
吉野川沿いの主な地形地質		支川による扇状地および低位段丘が発達している。これは、阿讃山地がもろい砂岩・泥岩の互層からなる和泉層群から構成され、土砂供給が豊富な条件にある。	三波川帯の緑色片岩と泥質片岩で阿讃山地に比較して安定しており、支川からの土砂供給は少ない。
各町の中心街の特徴		扇状地などの地形の高い所に発達	半田町、貞光町、穴吹町、山川町に見られるように、支川の下流部に発達した低位段丘にあり、街の中心は吉野川沿いにない。
その他		北岸用水、夏子ダム、宮川内ダムなどの灌漑用水が整備されている。	上水、農業用水とも支川の水利用が多い

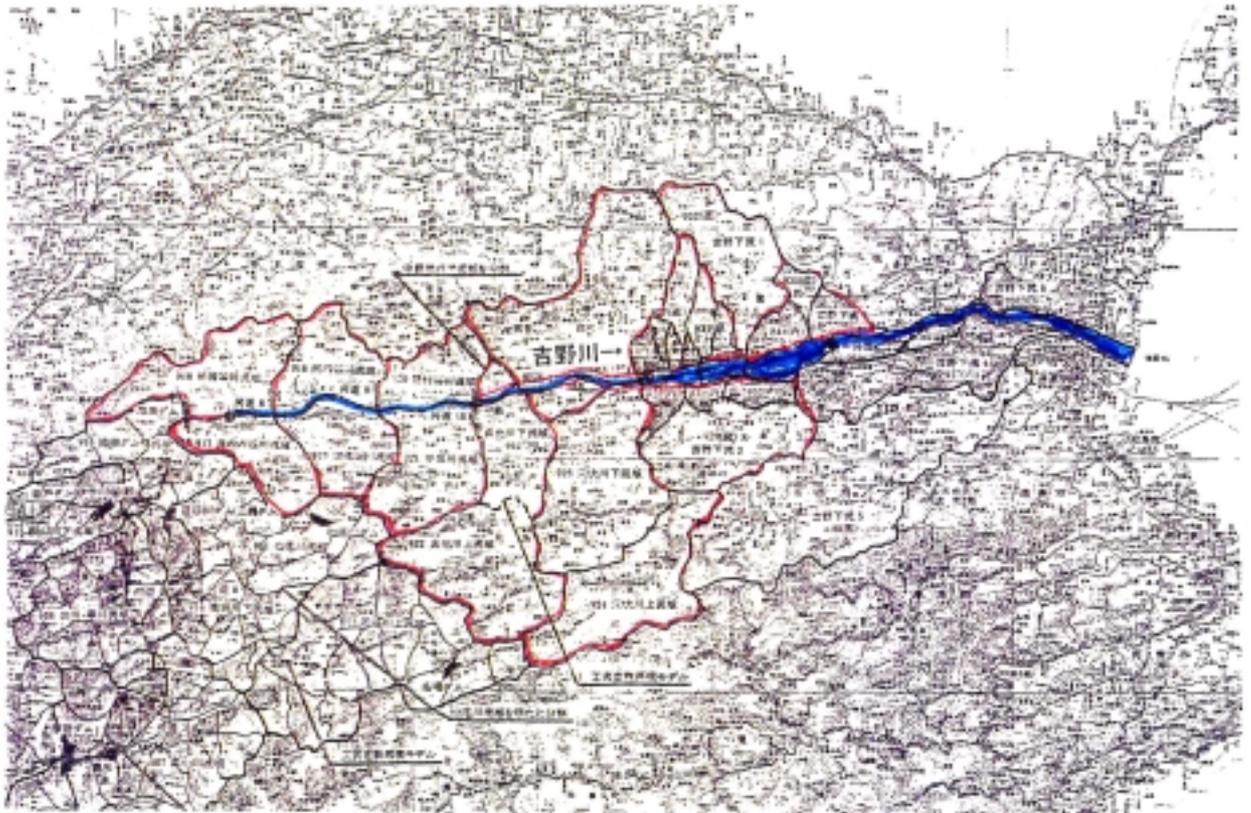


図-6.3.2 吉野川下流部の流域分割図 — 分水嶺

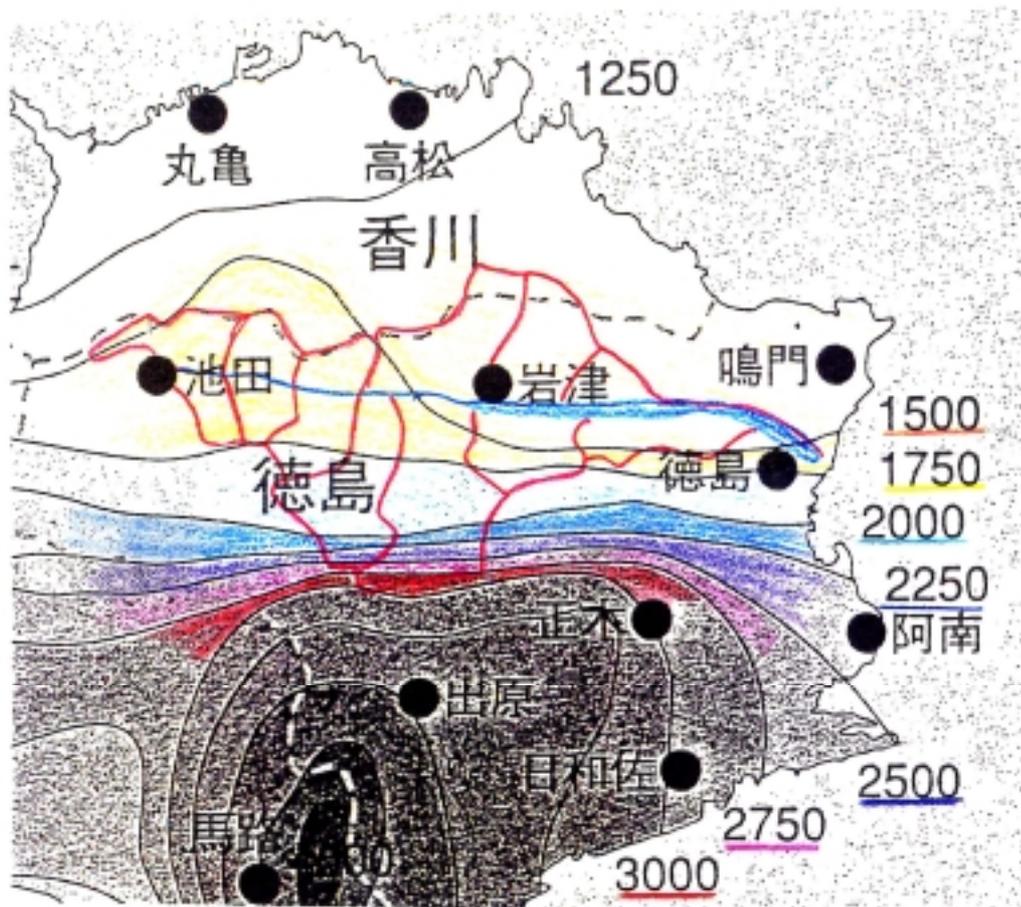


図-6.3.3 四国の年間降雨量分布図 1966年～1980年の平均(mm)
 「出典:建設省四国地方建設局発行:この100年をふりかえり明日の四国につなげる.H12.12」